

特 集

スタートアップ創出のためのアントレプレナーの役割

特集担当エディター

本 庄 裕 司

中央大学教授

『企業家研究』第22号では、第5回特集テーマとして「スタートアップ創出のためのアントレプレナーの役割」を募集しました。以下では、特集の趣旨と掲載された論文の内容を紹介します。

現在、日本を含むいくつかの国では長期的な経済成長の停滞が続いています。こうした中、創業間もないスタートアップ企業には、経済を牽引する将来的な担い手として期待が寄せられています。スタートアップ創出は、イノベーションや新たな雇用の創造の機会を生み出し、企業間競争を通じた経済活性化を促進します。

スタートアップ創出にあたって、いうまでもなく企業家（あるいは起業家、以下、「アントレプレナー」で統一）の役割が不可欠です。歴史を振り返っても現在の代表的な企業の多くでアントレプレナーが大きな役割を果たしてきました。スタートアップ創出やその成長の過程で、アントレプレナーやそのパートナーなどの創業チームの果たす役割は小さくありません。また、取引先、金融機関、公的機関、大学などの研究機関、ときには、メンターなどのステークホルダーがスタートアップ企業のその後に影響することもあります。こうしたアントレプレナーを取り巻く人や組織およびスタートアップ企業を取り巻く環境がその後の成長に重要な役割を果たします。スタートアップおよびアントレプレナーシップの研究では、しばしばこうした点に注目してきました。

本特集では、スタートアップ創出のためのアントレプレナーの役割に関する研究を募集しました。ここでは、日本を代表する、かつてのアントレプレナーだけでなく、近年事業をはじめたアントレプレナーまで、時代を超えたアントレプレナーシップに注目しています。また、スタートアップ創出やその後の成長やイノベーションなど、スタートアップのもたらす経済効果にも注目します。本特集で注目するスタートアップおよびアントレプレナーシップに関する研究は、将来的な経済成長の担い手を生み出すために有益な示唆を与えると考えられます。

本特集では、「スタートアップにおけるAI利用とイノベーションー全国イノベーション調査に基づく実証研究ー」（池田雄哉・羽田尚子）を掲載しました。池田・羽田論文では、「全国イノベーション調査」で得られたデータを利用し、AI (artificial intelligence)

の利用がイノベーションの市場成果に及ぼす影響を実証的に分析しています。とくに、サンプル企業をスタートアップとそれ以外の企業（「小・中規模企業」と呼ぶ）に区分し、それぞれのAI利用によるイノベーションの市場成果を検証しました。データの制約もあって、アントレプレナーに関する議論は見られませんが、その一方で、スタートアップ企業と小・中規模企業との比較を通じて、スタートアップ企業のイノベーションを明らかにしています。具体的には、AIを利用した企業、とりわけAIを利用したスタートアップ企業では、新製品や新サービスなどによる売上高の比率が上昇し、スタートアップ企業におけるAIの利用の効果を示しました。この点は、これまでの研究で十分に明らかにされていない新たな発見事実といえます。また、こうした研究成果は、経営資源の乏しいスタートアップ企業がイノベーション活動に従事するにあたって情報技術の利用が有効なことを示すだけでなく、スタートアップ企業の情報技術の利用を促す政策の有効性を示唆しています。

本特集にあたって、査読者の方々には論文の審査編集にご協力いただき、たいへん有益なコメントをいただきました。審査の結果、残念ながら掲載に至らなかった投稿論文もありました。この場をお借りして、すべての投稿者および査読者の方々に厚く御礼申し上げます。また、田中一弘委員長をはじめ編集委員会の方々および企業家研究フォーラム事務局には、編集準備や審査過程でご助言ご協力いただいたことにも感謝申し上げます。

次回、第6回特集（第24号：2024年7月刊行予定）のテーマは「企業史料の保存と利活用」です。関連する研究に従事されている方々は、この機会に是非投稿をご検討ください。